

2022年度 焼津福祉文化共創研究会 事業報告（活動4年目）
活動テーマ：「地域共生社会をめざす仕組み検証事業
高齢者とともに、地域共生社会を拓く - ホッとする地域づくりは誰が担うか -

○焼津福祉文化共創研究会の活動の原点

平成28年度から平成30年度まで3年間にわたり、いかに、「共助・近助の地域を再構築することができるか」を目的に、住民主体の企画運営により、「港地域ささえあい講座」（港第14・23自治会による組織体・港地域づくり推進会主催）を開講。市民主体で取り組んだ、尊い実践講座の3年間の取り組みの総括から、次の「10の地域課題」を浮き彫りにした。

- (1) 語れる地域環境の醸成（世代を超えた地域総合型学習形態の仕組みづくり）
- (2) 「地縁組織」（お互い様）と「志縁組織」（使命感）の融合による地域づくりの取り組み
- (3) 「専門性」と「市民性」の融合（管内福祉施設連絡会とのネットワーク化と地域介護力アップ）
- (4) 当事者組織化の支援
- (5) 具体的な地域の生活支援策の把握
- (6) 管内のささえあいの仕組みづくり
- (7) 総合的・地域支援組織の再構築（トータルコーディネート機能）
- (8) 地域を「見える化」する広報啓発
- (9) 制度施策を理解する地域福祉教育環境の醸成
- (10) ご近所福祉の復活

その後、この講座運営に関わった実行委員有志と地域活動に関心を持つ市民（当時14名）が、これまでの講座の成果をさらに地域づくりに活かそうと、「志縁団体」として、2019年4月「焼津福祉文化共創研究会」（福文共）が誕生した。こうした、課題改善・解決に向けて、市民有志で結成した。

○結成から4年間をまとめる

結成から、これまでの3年間は、尊い「焼津市赤い羽根共同募金地域福祉促進助成事業」と「静岡県コミュニティづくり推進協議会・コミュニティ活動集団助成事業」により、意義ある活動を展開し、地域住民に検証してきた活動を報告し、問題提起に努めてきた。また、結成と同時に、「焼津市ボランティア連絡協議会」に23番目の団体として加盟し、地域活性化に向けた問題提起に努力をしてきた。

◇1年目（2019年度）

*活動テーマ「港地域の“ご近所”を切り拓く 集まる居場所で地域ぐるみのささえあいを検証する」

約5,000世帯をもって組織化されている「港地域づくり推進会」（第14・23自治会）管内において、今まで、地域や個々の人々のつながりの中で、気兼ねなく集まり、会話を交わし、ふれあい交流し、普段の拠り処としている「居場所的機能」を持つ55の既存の各種団体・グループを把握し、「集める居場所から集まる居場所」を課題提起出来た。

◇2年目（2020年度）

*活動テーマ「港地域のご近所福祉を切り拓くパート2 ―協働による地域課題解決を探る―」

1年目にまとめた結果をもとに、さらに把握に努めるとともに、管内関係団体や住民に機会あるごとに情報提供し、改めて、こうした既存の団体グループの様々な取り組みを地域住民が共有し、積極的に地域参加する機会を呼び掛け、「ご近所福祉その意識と実態調査」に取り組み、地域で顔の見える“近助”の関係づくりができる「協働による地域づくり」を働きかけた。

◇3年目（2021年度）

*活動テーマ「港地域をつなぐ・ささえあう“ご近所福祉”を創る」

この2年間にわたり考察・実践してきた活動のプロセスから、改めて、港地域の現状を踏まえて、地域を家庭化し、世代を超えて、誰もが地域づくりに関われるご近所を“地域の居場所”としていく活動に取り組んだ。これまで、大人社会から地域づくりへの課題を浮き彫りにしたが、今日、子ども問題が社会化していることを踏まえて、「“福祉”ってなに？244名の子どもたちに聞きました調査」の実施を通じて、子どもから大人社会への問題提起を浮き彫りにした。

◇4年目(2022年度)

*活動テーマ「地域共生社会をめざす仕組み検証事業

高齢者とともに、地域共生社会を拓く - ホットする地域づくりは誰が担うか -」

1. 2022年度 本会活動の着眼項目

- (1)世代を超えて「地域ぐるみの居場所「ご近所福祉の構築維持」を創る「地域総合型公開学習」の場
- (2)常に、地域社会に向けた課題提起と協働による活動ができる場
- (3)「専門性と市民性の融合」を基に、「協働」による実践的課題解決改善に取り組む場
(地縁団体と志縁団体の融合)
- (4)3年間の「調査結果・考察」から浮き彫りになった課題を議論し合う場(コーディネート資質の向上)
- (5)地域コミュニティの活性化に向けた仕組みづくりを「理論と実践の融合」により継続的活動に取り組む場
- (6)常に、地域社会に積極的に活動が展開できるように「活動財源確保」に努める

2. 事業実施期間 2022年4月1日～2023年3月31日

3. 活動範囲 焼津市港地域づくり推進会管内(港第14・23自治会,約5,000世帯の中学校区)

4. 会議・研修会等

- (1)定例研修会…12回開催(原則毎月第2土曜日 18:30～21:00)
- (2)地域共生社会調査研究部会…10回開催(「静岡福祉文化を考える会」との協働の取り組み)
- (3)港地区民生委員児童委員協議会…3回説明報告出席
- (4)管内自治会関係者会議…3回説明報告出席
- (5)さわやかクラブ関係者意見交換会…3回説明報告出席

5. 事業内容

(1)「ホットする、安心した地域づくりその意識と実態調査」の実施

地域住民相互のつながりやささえあいが弱くなり、地域コミュニティへの関りについて、その意識と実態が希薄化の傾向にあることが浮き彫りになった。長引く厳しいコロナ禍下、尊い地域コミュニティ組織は、さらに希薄化の傾向が伺われ、「共助」「自助」がますます退行傾向にある。こうした社会環境の中で暮らす、高齢者の現状を把握するとともに、コロナ明けに、地域(ご近所)のささえあいの仕組みづくりに期待することは何かを問い質し、これから、地域社会が果たす課題をまとめ、広く管内の住民に提言することを目的に実施した。

■管内の高齢者	315名から回答
■調査実施協力者 さわやかクラブ(老人クラブ)役員	20名
管内民生委員児童委員	24名
管内自治会・町内会・組長役員	36名
管内学校関係者	2名
管内福祉施設連絡会(介護事業所)	13名
	計95名

(2)「地域共生社会調査研究部会」の設置・開催

- 開催回数 10回
- 参加者 本活動に関心のある管内外市民 延べ50名

(3)「ホットする、安心した地域づくりその意識と実態調査報告書」の作成と配布

上記、「調査」を集計・考察・編集作業

- 関わった方々 延べ 10名

■調査報告書配布先

- ・志縁団体(自治会・町内会・組長等役員)・協働団体(民生委員児童委員・さわやかクラブ)・

日本福祉文化学会・焼津市行政各部署(地域福祉課・地域包括ケア推進課・広報課・市長)・
 静岡県及び焼津市社会福祉協議会及び焼津市V連絡協議会・静岡県関係行政機関(地域福祉
 課・長寿政策課)・静岡県コミュニティづくり推進協議会・研修会参加者・焼津警察署(管内交番)

計200冊

(4)「協働団体との意見交換会」の開催 延べ8回(138名)

本事業を円滑に取り組むために、事業実施期間中、「さわやかクラブ(老人クラブ)定例会」(2回)

「自治会関係会議」(3回)、「地区民生委員児童委員協議会会議」(3回)に出向き、「ご近所の支え合い」
 をテーマに意見交換をした。

(5)「公開型研修会:地域共生社会を語る」の開催 参加者 35名

「調査報告書」をもとに、「事業経過報告」「事業成果」「調査から見えたものはなにか」「住民主体の地域づくり
 を語る」「実践事例に学ぶ」(外部講師)をプログラムとして2月18日開催した。

(6)「ご近所福祉を創る集い」の開催 参加者 延べ100名

事業実施期間中に、3回(7月、11月、2月)に協働団体(静岡福祉文化を考える会)との連携により、若者
 とともに制作した「若者発 ご近所福祉かるた」を活用して、地域の支え合いについて、小学生から大人社
 会が参加して、地域サロン会場中心に、地域総合型、実践的体験的学習に取り組んだ。

(7)「ホッとする、安心した地域づくり」に向けた広報啓発

本会通信(毎月150部発行)や、本会ブログを開設し、本事業の実施状況を中心に、関係方面に発信した。

- ①日本福祉文化学会HPを主体に、静岡福祉文化を考える会ブログとの連動による本会ブログにより、広く、
 活動を通じた課題提起を発信した。
- ②「焼津福祉文化共創研究会通信」発行(第号から第号まで、13回発行)
- ③積極的に、マスコミへの情報提供に努めた。

6. 協働事業

- ①「管内福祉施設連絡会」との協働事業
- ②「静岡福祉文化を考える会」との協働事業
- ③「焼津市V連」との協働事業
- ④「港地域づくり推進会」「港第14・23自治会」「管内子供会」「管内2つの小学校」「港地区民生委員児童委
 員協議会」等各種団体・グループとの協働事業

7. 地域の団体等との連携

本事業を実施するにあたり、この一年間、活動を通じて連携を維持してきた団体

- ①静岡県関係行政(地域福祉課、長寿政策課、地域振興課) ②静岡県関係団体(静岡県社会福祉協議会、
 静岡県コミュニティづくり推進協議会、ふじのくに未来財団) ③焼津市関係行政(焼津市地域福祉課、地
 域包括ケア推進課) ④焼津市社会福祉協議会 ⑤焼津市ボランティア連絡協議会 ⑥焼津市港中学校
 区介護事業所福祉施設連絡会 ⑦焼津市港地区民生委員児童委員連絡協議会 ⑧焼津市南部地域包
 括支援センター ⑨焼津市港地区さわやかクラブ ⑩管内2つの公民館(港公民館、小川公民館)
- ⑪管内小学校2校、中学校2校 ⑫管内港地域づくり推進会事務局 ⑬管内2つの自治会 ⑭管内県社
 会教育施設(県立焼津青少年の家) ⑮焼津警察署・小川交番 ⑯管内居場所

8. 2022年度 活動経過記録(協働団体:静岡福祉文化を考える会関連活動を含む)

月/日	経過記録
03/26	➤ 「3月(第36回)定例研究会」開催(2021年度総括, 2022年度活動計画協議)
03/28	➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.31」発行, 関係方面に送信
04/16	➤ 「令和4年度焼津市V連総会」及び「代表者会議」出席
04/19	➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.32」発行, 関係方面に送信

04/20	➤ 「4月港地区民生委員児童委員協議会定例会議」で「通信」配布
04/23	➤ 「静岡福祉文化を考える会第200回委員会」開催(@静岡市清水区迫分寄ってっ亭)
04/30	➤ 「4月(第37回)定例研究会」開催
05/03	➤ 「さわやか福祉財団助成事業要項」取り寄せと書式データ加工(Word文書)依頼
05/04	➤ 「さわやか福祉財団助成事業」申請申し込み書作成作業(～5/9)
05/08	➤ 「研究会通信 No.33」編集・発行
05/14	➤ 「5月(第38回)定例研究会」開催
05/16	➤ 「研究会通信 No.33」各団体等へ配布及びメール送信作業 ➤ 本日より、「公益財団法人さわやか福祉財団助成事業申込書」及び「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業助成申請書」作成作業開始
05/21	➤ 静岡福祉文化を考える会主催「第1回公開型研修会」及び「第201回委員会」において、本会との「協働」について説明 ➤ 「焼津市V連絡協議会代表者会議」出席
05/25	➤ セイコー社(印刷業者)に、助成事業申請にあたり「調査報告書見積書」作成依頼
05/27	➤ 焼津市関連団体等に「調査報告研修会」を8月中旬開催で検討したい旨を連絡
05/28	➤ 地区民協会長に、今年度の調査研究事業への協力打診
05/29	➤ 「(公財)さわやか福祉財団助成事業申込書」及び「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業助成申請書」作業実施 ➤ 「研究会要覧」(初版)内容修正の必要性あり、修正組み替え作業依頼
05/31	➤ 焼津市社協へ「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業助成申請書」提出(本日最終締切日)
06/01	➤ (公財)さわやか福祉財団へPDF化して助成事業申込書を送信作業実施 →財団より申し込みのデータ受信した旨の回答あり(後日、審査会結果を連絡)
06/02	➤ 「公益財団法人さわやか福祉財団」へ、レターパックにて「補足資料」を送信
06/07	➤ 焼津市社協より、「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」に関する「審査会」を開催の通知あり(6月17日15:00～@焼津市総合福祉会館3F多目的ホール)
06/10	➤ 「研究会通信 No.34」,「6月定例研究会レジュメ」仕上げ、配布作業
06/11	➤ 「6月(第39回)定例研究会」開催
06/12	➤ 6/17 焼津市社協・助成事業審査会プレゼンテーションに向けた連絡調整作業(市社協)
06/15	➤ (公財)さわやか福祉財団より、助成決定(¥15万)の連絡有、会員及び関係方面に連絡済 ➤ (公財)さわやか福祉財団事務局へ、助成決定のご配慮のお礼連絡済 ➤ 静岡県内「さわやか静岡関係者」に、財団助成決定報告及び今後の支援依頼 ➤ (株)セイコー社に、(公財)さわやか福祉財団助成決定の報告及び、見積書に基づく発注を時期が来ればお願いする旨手紙で連絡
06/16	➤ 港地区民協会長大石様に、①8/20 公開型研修会開催への協力、②今年度の「調査研究事業」への協力を依頼 ➤ 焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業審査会スライド完成、データを焼津市社協に送信済
06/17	➤ 焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業審査会出席(原崎洋一氏)、終了後会員に報告 ➤ 港地域づくり推進会事務局、港第14自治会長へ、8月20日調査報告研修会、調査研究事業の協力を依頼
06/20	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?」報告書作成企画
06/21	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?」当日の展開表検討

月/日	経過記録
06/22	➤ (公財)さわやか福祉財団助成事業助成金振込有、「調査実施」の細部検討作業実施
06/23	➤ (公財)さわやか福祉財団助成事業「調査実施」の「調査部会」設置具体化
06/24	➤ 「2022年度静岡県社会教育委員全体研修会」(静岡市・あざれあ)において、「子ども対象調査結果」を紹介、大人社会の子どもへの向き合い方を「福祉と教育の融合」を視点に説明
06/25	➤ 港第14自治会町内会長会議において「報告研修会」及び「調査実施」について、協力要請
06/26	➤ 「調査票」の組み立てについて検討、管内福祉施設連絡会に事業協力呼び掛け

07/01	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?’看板・表示修正
07/02	➤ 焼津市社会福祉協議会より「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」採用通知あり ➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?’ポスター&チラシ編集
07/03	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?’当日レジュメ修正
07/04	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?’スライド修正
07/05	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?’具体的展開表検討
07/06	➤ 「研究会通信 No.35」発行, 関係方面へ配布・送信 ➤ 焼津市社協との連絡調整(助成決定お礼と事業開始の報告)
07/07	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座“ご近所のささえあい”を誰が担うか?’ポスター&チラシをもとに, 参加呼び掛け作業開始(学校, 子供会, 町内会等) ➤ さわやかクラブ会長へ講座案内と調査協力要請
07/08	➤ 講座講師依頼事前了解と正式文書(藤下氏・石津氏), 近隣地域関係者へ講座案内文書送付
07/09	➤ 「7月(第40回)定例研究会」開催 ➤ 「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」助成金請求書送付
07/10	➤ 港第14自治会第12町内会組長会議にて「講座」及び「調査」について説明し, 協力を依頼
07/20	➤ さわやかクラブやいづ連合会会長より, 講座参加の連絡あり ➤ 「7月定例港地区民生委員児童委員協議会会議」に出向き, 本会の活動の報告, 赤い羽根共同募金協力のお礼等をし, 今後の「講座」及び「調査」への協力を依頼
07/21	➤ 公益財団法人さわやか福祉財団へ、助成事業の経過報告とともに、「地域シニアが子どもたちと共に遊ぶ どう遊ぶ Q&A」冊子 50冊, 「ともあそびへのおさそい」冊子 50冊申込
07/23	➤ 協働団体「静岡福祉文化を考える会役員会」にて, 本会の活動状況を報告(協働団体との意見交換2回目) ➤ 協働団体「静岡福祉文化を考える会・公開型研修会」において「ご近所福祉を創る集い」展開
07/25	➤ 港第14自治会町内会長会議において, 本会の活動への支援(赤い羽根共同募金助成)のお礼・報告, 「講座」及び「調査」の協力とともに「調査研究部会」への参加を呼掛け
07/26	➤ さわやかクラブやいづ連合会会長と意見交換, 「調査」の協力を了解していただく
07/30	➤ 「第1回地域共生社会調査研究部会」開催
07/31	➤ (公財)さわやか福祉財団へ助成決定後の事業の動きを報告
08/01	➤ 管内福祉施設連絡会へ, 本会事業の協力名義確認
08/06	➤ 「第2回地域共生社会調査研究部会」開催, 「研究会通信 No.36」発行, 配布・送信
08/15	➤ 「みんなで創る福祉講座」外部講師との連絡調整
08/20	➤ 「8月(第41回)定例研究会」, 「みんなで創る福祉講座」開催
08/21	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座」外部講師及び協力呼びかけ団体等への礼状送付 ➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座報告書」執筆・編集作業(～9/15)
08/22	➤ 焼津市社会福祉協議会へ「講座」開催報告とお礼の電話 ➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」調査票最終校正・仕上げ・印刷
08/23	➤ 「みんなで創る福祉を学ぶ講座参加者アンケート」集計
08/24	➤ 学校・関係団体等へ「みんなで創る福祉を学ぶ講座」開催報告(関連資料添付)
08/25	➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.37」発行(関係方面へメール送信) ➤ 港第14自治会町内会長会議において, 講座報告・御礼及び「調査事業」協力依頼
08/26	➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査」調査票発送準備(依頼文書作成)
08/28	➤ 「さわやかクラブ連合会やいづ」滝澤会長に講座協力お礼と調査協力依頼
月/日	経 過 記 録
09/03	➤ 「講座報告書」作成に関する協議(シブヤ工芸社) ➤ 「第3回地域共生社会調査研究部会」開催, 調査配布状況とデータ入力作業確認
09/07	➤ 「さわやかクラブ連合会やいづ」滝澤会長と協議
09/08	➤ 調査票回収開始により, 本日より「データ入力」作業開始
09/17	➤ 本日現在調査票回収 102枚(目標: 200枚), データ入力作業開始(36枚済) ➤ 「9月(第42回)定例研究会」開催

09/20	➤ 「講座報告書」仕上がり
09/21	➤ 9月港地区民生委員児童委員協議会定例会にて、講座報告・御礼及び調査事業協力呼びかけ
09/25	➤ 関係方面に「講座報告書」配布作業(送付文書)
09/30	➤ 焼津市社会福祉協議会へ「赤い羽根みんなのしあわせ助成事業実施報告書」提出 ➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.38」発行・配布・送信 ➤ 菊川市協議体会議にて、本会の取組状況(「講座」「調査」)について、「共助」をテーマに説明
10/01	➤ 「第4回地域共生社会調査研究部会」開催
10/05	➤ 関係方面へ、本会活動状況報告
10/08	➤ 「10月(第43回)定例研究会」開催
10/10	➤ 港第14自治会第12町内会組長会議で、調査協力のお礼と経過報告(調査票回収171枚)
10/11	➤ 焼津市社会福祉協議会に「自治会単位の基礎データ」資料提供依頼(来年度の取り組み関連)
10/14	➤ さわやかクラブ滝澤会長との連絡調整
10/15	➤ コミュニカレッジにおいて、本会の活動を説明、「若者発近所福祉かるた」及び調査活動を紹介
10/19	➤ 10月港地区民生委員児童委員協議会定例会にて、改めて講座報告・御礼及び調査協力依頼
11/02	➤ 調査票回収: 315枚、調査協力団体にここまでの調査研究活動の経過報告
11/03	➤ 本日までの調査集計及びクロス集計表を作成
11/05	➤ 「第5回地域共生社会調査研究部会」開催
11/17	➤ 「11月(第44回)定例研究会」開催、「焼津福祉文化共創研究会通信 No.39」発行
11/26	➤ 第214回静岡福祉文化を考える会委員会開催、第21回静岡県福祉文化研究セミナー開催
12/03	➤ 「第6回地域共生社会調査研究部会」開催
12/17	➤ 「第7回地域共生社会調査研究部会」開催
12/24	➤ 「12月(第45回)定例研究会」開催、「焼津福祉文化共創研究会通信 No.40」発行 ➤ 「Our Life No.143」(静岡福祉文化を考える会)発行 ➤ 「焼津福祉文化共創研究会調査報告書」印刷業者に入稿
01/07	➤ 「第8回地域共生社会調査研究部会」開催、静岡県域版調査報告書印刷業者入稿
01/14	➤ 「1月(第46回)定例研究会」開催、1月焼津市V連代表者会開催 ➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.41」発行、「焼津福祉文化共創研究会調査報告書」納品
01/28	➤ 「静岡福祉文化を考える会調査報告書」納品・配布
02/04	➤ 「第9回地域共生社会調査研究部会」開催
02/15	➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査報告書」(焼津福祉文化共創研究会)発行・配布
02/18	➤ 「2月(第47回)定例研究会」開催、「地域共生社会を語る」研修会開催
02/22	➤ 「ホッとする安心した地域づくりその意識と実態調査報告書」(静岡福祉文化を考える会)発行
02/25	➤ 「第3回静岡福祉文化を考える会・公開型調査報告研修会」開催 ➤ 第215回静岡福祉文化を考える会委員会開催 ➤ 「焼津福祉文化共創研究会通信 No.42」発行 ➤ 港地域づくり推進会関連会議において、焼津福祉文化共創研究会事業報告とお礼
03/04	➤ 「第10回地域共生社会調査研究部会」開催
03/15	➤ 港地区民生委員児童委員協議会会議で、焼津福祉文化共創研究会事業報告とお礼
03/18	➤ 「3月(第48回)定例研究会」開催、「焼津福祉文化共創研究会通信 No.43」発行
03/25	➤ 「静岡福祉文化を考える会第216回委員会」開催
03/28	➤ (公財)さわやか福祉財団へ助成事業「実施報告書」提出、関係機関・団体へ事業報告

9. 活動を振り返る(成果と課題)

(1)今日の地域事情から、計画的な地縁団体の活動や行事は、縮小または中止により、日常的な具体的な機能が十分に地域住民には伝わっていない。

さらには、地域住民に対する地域の実情を理解する、情報提供の機会も十分に行われていない。

こうした中で、高齢者を取り巻く生活状況や、地域社会のこれからのあり方を、特に若い世代に対して関心を持つ糸口を作ることが出来た。

(2)本会結成して4年間にわたり、「地域ぐるみの居場所検証」「ご近所のささえあい検証」「大人社会に向けた子ども

もの福祉提言検証」等に取り組み、今回4年目の取組として、「地域共生社会検証」の問題提起は、改めて「地域総合型学習の提供」として、管内の高齢者の意見をもとに、世代を超えた交流のあり方や、「公助」「共助」「自助」をそれぞれの立場で学び合う課題提起が出来た。

そして、これまでの地域の支え合いを見直し、「地域の支え合いの再構築」を「地域共生社会を語る集い」を開催して問題提起することが出来た。

- (3)年度ごとの福祉課題をテーマに取組んできた「調査」は、今回は、厳しいコロナ禍下で、地域コミュニティの希薄化の中で、孤立化しがちな高齢者の状況を把握して、「調査結果」を分析考察し「報告書」としてまとめることが出来た。このたびの取り組みは、管内外の住民に意識改革を働きかけ福祉コミュニティづくりの再構築を生み出す呼び掛けをすることが出来る。
- (4) 会員中心に取り組む求心的・閉鎖的活動から、幅広い実践者等と会員により「調査個票の作成」「調査結果の考察及び有効活用方法」を議論するとともに、今日、問題解決は、制度や公助等「専門性」を重視した社会環境になりつつある現状から、コロナ後の地域社会について、高齢者とともに、改めて、私たちを取り巻く地域社会は、生活圏域の様々な福祉課題を、地域の持つ「福祉力」で支え合いの仕組みを構築していくことが必要か、「高齢者の真の自立と世代間の相互理解」等について、さらに、問題提起をしていく課題がある。
- (5)市民主体の福祉コミュニティの再構築について、管内住民と共に「みえる化」「みえる化」した「公開型研修会」の機会を確保し、「地域総合型学習」の取り組みを深め、地域性を鑑みながら、高齢者とともに、住民一人ひとりが担い手としての意識改革の機会を持つことをこれからも、働きかける課題がある。
- (6)広く、管内外の住民に「コロナ後の地域づくりは誰が担うか」(仮称)を特集として、本会広報誌「焼津福祉文化共創研究会通信」(結成以来、現在までに通算33号発行、毎月100部発行)を通じて、今後においても、広く管内外に啓発するとともに問題提起をしていく。
- (7)改めて、「協働」による地域づくりについては、積極的に「地縁組織」に働きかけていき、さらに「志縁組織」の取り組みを「見える化」「わかる化」していく努力が求められる。
具体的に、5年目の活動に向けて、本会の活動基調を再確認していくことが必要である。
- (8)今年度は、「公益財団法人さわやか福祉財団地域助け合い基金助成事業」「焼津市赤い羽根みんなのしあわせ助成事業」により、計画に基づく活動実績が出来た。
「活動財源確保」は、これからも引き続き努力していかなければならない。
- (9)4年間で、地域に問題提起をすることが出来た。
これからは、課題改善・解決に向けた市民レベルで、「トータルなコーディネート機能」が出来る力量を高めていく努力をしていかなければならない。